

認知症対応で連携模索

函館市地域包括支援センターときとう（長谷山哲平センター長）は7日、時任町のこんくりニックで圏域内の郵便局長を招いて地域懇談会を開いた。ともに認知症患者に対応する機会が多いこと

から、連携を模索しようという動きで、市内の包括支援センターとしては初の試み。懇談会では対応したケースの情報を共有した。

（松宮一郎）

郵便局と包括ときとう 情報共有、初の試み



郵便局の窓口で局員は、客の変化や認知症の進行具合に気づくことが多く、早い段階で適切な支援につなげることができないかと、ときとうが初めて懇談会を企画した。参加したのは、ときとうの職員5人と、圏域内にある時任、人見、本町、白鳥、松陰、柏木郵便局の局長6人。郵便局の局員は講座を受講し認知症サポーターになるなど病気に理解を深め、増加する患者への対応に力を入れている。それでも窓口で苦慮するケースも少ないこと。

認知症患者への対応を話し合った、市地域包括支援センターときとうと郵便局長の地域懇談会

懇談会で局長側が認知症と思われる高齢者に対応したケースを紹介。通帳を再発行したことを忘れ、何度も局を訪れた人や、まとまった金額を引き出した数日後にまた多額のお金を引き出そうとした認知症が疑われる人も。また、お金を盗まれたと訴える、妄想の症状が見られる場面もあったという。一方、「個人情報観点から、包括支援センターに相談するタイミングが難しい」といった意見も上がった。時任郵便局の高橋剣局長は「貴重な機会だった。今後も緊密に連携していきたい」と話

モルツク体験、ステージや花火

【七飯】大沼の夏を楽しむ「第3回七飯大沼夏祭り」が11日午後1時から、大沼国定公園広場で開かれる。一般社団法人ぐるり道南観光推進協議会（小林克彦会長）の主催。

2020年まで開催した「沼っ子ふるさと夏まつり」を「同協議会が継承し、22年から新たなイベントとしてリニューアルした。

七飯モルツク協会がモルツク体験会や大会を開くほか、大沼岳陽学校吹奏楽部の演奏、花火大会など多彩なプログラムを繰り広げる。大沼交通創立50周年記念企画として、ものまねタレント、ニセ

あす七飯大沼夏祭り

多彩な催し楽しんで

キンのステージショー（3時、同7時半）を明後3時半からカラオケ（予選）を開き、同日から上位3組による進行。

午後6時20分からは、ピア大沼のペア宿賞品が贈られる仮装大会を開催。定員30人希望者は事前に電話で。同8時から花火、300発を打ち上げ、締めくく。

仮装盆踊り大会のみ、問い合わせは（01388・85・8）へ。

（鈴）